

令和6年4月25日

教育委員会第4回定例会記録

石巻市教育委員会

教育委員会第4回定例会記録

◇開会年月日 令和6年4月25日（木曜日） 午後 2時30分開会

午後 3時17分閉会

◇開催の場所 本庁舎4階 庁議室

◇出席委員等 5名

教 育 長	宍 戸 健 悦
委 員（教育長職務代理者）	阿 部 邦 英
委 員	梶 谷 美 智 子
委 員	大 和 千 恵
委 員	依 田 晴 美

◇出席職員 事務局長 富 澤 成 久

事務局次長 今 野 良 司

事務局次長（教育・文化芸術振興担当） 工 藤 聖 子

学力向上推進監 仲 上 浩 一

教育総務課長 赤 坂 将 人

学校再編推進室長 星 憲

学校教育課長 福 田 光 一

学校安全推進課長 佐々木 伸

学校管理課長 土 田 順 平

生涯学習課長兼博物館長 高 橋 秀 和

◇書 記 教育総務課長補佐 成 澤 和 彦

教育総務課総務係長 平 塚 悦 子

教育総務課主査 黒 澤 由 紀 子

◇付議事件

一般事務報告

- ・教育長報告
- ・令和6年度石巻市奨学生の採用結果について
- ・スクールサポートスタッフ配置支援事業について
- ・石巻市博物館を核とした文化芸術振興に関する連携協力協定の締結について

その他

午後 2時30分開会

○**宍戸健悦教育長** それでは、ただいまから令和6年第4回定例会を開会いたします。

本日の会議ですが、欠席委員はおりません。

会議署名委員の指名

○**宍戸健悦教育長** それでは、会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録署名委員は依田委員にお願いいたします。

よろしく申し上げます。

教育長報告

○**宍戸健悦教育長** それでは、本日の案件に入ります。

本日の案件は、一般事務報告が4件、その他となっております。

それでは、一般事務報告に入ります。

初めに、私から報告をいたします。

今月の学校の状況について報告をいたします。

4月の学年初め休業が明けて、各学校では令和6年度第1学期の始業式・入学式等の行事を行い、新たな学校生活を始めたところでございます。また、桜坂高等学校の入学式に際しましては、委員の皆様にご臨席いただきありがとうございました。

新年度のコロナウイルス及びインフルエンザの感染状況につきましては、始業式時点で、幼小中高合わせて、コロナウイルス5人、インフルエンザ14人でありました。その後も現在までの合計でコロナウイルス37人、インフルエンザ56人という状況であります。集団感染は見られないものの、教職員にも感染者が出ており、今後とも注意深く見て参りたいと考えております。

さて、今年度の児童生徒数についてですが、4月1日現在で、小学校の児童数は5,717名で194名の減、中学校の生徒数は3,010名で120名の減となっており、3幼稚園と桜坂高等学校を合わせて9,103名、336名の減となります。昨年度と同程度の減少幅となっております。

次に、教育長関係会議について報告を申し上げます。

4月18日と19日に、東北都市教育長協議会定期総会が宮城県大崎市で開催され、今年は宮城県での開催ということで、東北の各市から、教育長さん方においでいただきました。ちなみに、前回の宮城県開催は平成30年度に石巻市で行われ、今回は大崎市という経緯であります。今年度の研修講話では、「今どき世代の中高生との向き合い方」と題して、仙台育英学園高等学校硬式野球部監督須江航氏の講演がありました。今どきの高校生に伝わる言葉は、こちらの気持ちや経験から探すのではなく、生徒が聞きたいことを相手の中から探す、そういう想像力が大事だというふうにおっしゃってございました。また、失敗経験が少ない子どもたちには、成功することからよりも、失敗から大きな学びがあるということを伝えているということなど大変示唆に富むお話でありました。

また、4月22日月曜日には県庁において、宮城県都市教育長協議会総会が行われ、令和6年度は、富谷市及川芳彦教育長が会長に就任いたしました。

また、同日、県庁講堂において、宮城県市町村等教育委員会教育長、総務担当課長会議が開

催されました。初めに、県教育委員会の佐藤靖彦教育長の挨拶があり、続いて、各課から今年度の主要事業等について説明がありました。

以上で報告を終わります。

何か御質問ございませんか。

(「なし」との声あり。)

令和6年度石巻市奨学生の採用結果について

○**宍戸健悦教育長** では、なければ次に、「令和6年度石巻市奨学生の採用結果について」の報告を、学校教育課長からお願いいたします。

○**福田光一学校教育課長** はい。教育長。

○**宍戸健悦教育長** はい。学校教育課長。

○**福田光一学校教育課長** それでは、「令和6年度石巻市奨学生の採用結果について」申し上げます。

資料2の1ページを御覧ください。

令和6年度志願者につきましては、大学の部のみ合計5名でございました。選考委員会が4月16日に行われ、選考の結果、全員を採用することとなりました。

また、応募の機会を増やす目的から、今年度におきましても、年度内に2回奨学生を募集することとしており、6月から第二次奨学生の募集を行う予定でございます。

さらに、昨年度に引き続き、次年度の予約採用による募集を10月頃より行う予定でございます。関連資料として、平成30年度から令和5年度まで、石巻市奨学生の志願者数と採用者数の推移を一覧にしておりますので、御覧いただきたいと思っております。

以上で報告を終わります。

○**宍戸健悦教育長** はい。それでは、ただいまの報告について、御質問等ございませんか。

○**大和千恵委員** はい。

○**宍戸健悦教育長** はい。大和委員さん。

○**大和千恵委員** 関連データの資料のところ、以前に比べて、今年は大分少ないのかなあとありますが、減っていつている経緯等あれば教えてください。

○**福田光一学校教育課長** はい。

○**宍戸健悦教育長** はい。学校教育課長。

○**福田光一学校教育課長** 市の奨学制度がいわゆる貸与型で、働いたらお金を返すという奨学金ですけれども、国は給付型の奨学金制度が大分整備されていまして、そちらにいく学生が増えたというところが一番大きいところかなというふうに思います。そちらの選考に漏れて、この奨学金を希望するというパターンが多いのかなということと、この奨学生の制度自体がなかなか浸透していないということも要因にあると思っておりますので、その辺の宣伝活動も、今後行っていきたいと思っております。

○**大和千恵委員** ありがとうございます。

○**宍戸健悦教育長** よろしいですか。

選考の回数を3回に増やす努力はしているところですが、今後さらに周知をということでお話がありました。

他にございませんか。

(「なし」との声あり。)

スクールサポートスタッフ配置支援事業について

○宍戸健悦教育長 それでは、次に、「スクールサポートスタッフ配置支援事業について」の報告を学校教育課長からお願いします。

○福田光一学校教育課長 はい。教育長。

○宍戸健悦教育長 はい。学校教育課長。

○福田光一学校教育課長 それでは、「スクールサポートスタッフ配置支援事業について」報告いたします。

令和2年度から令和4年度まで、新型コロナウイルス感染防止対策を中心とした業務にスタッフを配置し、教育支援体制整備事業費補助金等を活用した配置支援事業を実施してまいりました。令和5年度は、補助金の交付要件である、教職員の客観的な在校時間の把握について、市内の小中学校では満たしていないことから、補助金活用ができず、配置支援事業を実施していませんでしたが、客観的な在校時間の把握を目的に、市内全小中学校にタイムカードを導入し、補助金交付の要件を満たすこととなりました。つきましては、令和6年石巻市議会第2回定例会に6月補正として、予算措置の提案を行い、スクールサポートスタッフ配置支援事業を実施することとなりました。

それでは、報告内容について御説明申し上げますので、表紙番号2の2ページから3ページを御覧願います。

初めに、事業名につきましては、「スクールサポートスタッフ配置支援事業」であります。「施策等を必要とする背景及び目的」といたしましては、初めに御説明した内容となります。次に、「根拠法令及び総合計画等との整合性」及び「提案に至るまでの経緯」につきましては、資料記載の通りであります。次に、「主な内容」につきましては、小中学校から配置希望のありました42校、小学校30校、中学校12校に配置することといたします。勤務時間については、1日4時間の勤務とし、1週間当たり20時間勤務といたします。なお、主な業務内容につきましては、学校からの配布物の印刷、事務作業の補助及び来客・電話対応等で、学校が必要とする事務的作業としております。

次に、「実施した場合の影響・効果」につきましては、施政への負担といたしまして、配置するスタッフの報酬、期末・勤勉手当の支出額24,603,000円を予定しております。令和6年度、教育支援体制整備事業費補助金を活用することとしております。なお、今後の予定といたしましては、石巻市議会第2回定例会へスクールサポートスタッフ配置支援事業に関わる予算案を計上することとしております。

以上です。

○宍戸健悦教育長 それでは、ただいまの報告について御質問等ございませんか。

○梶谷美智子委員 はい。

○宍戸健悦教育長 はい。梶谷委員さん。

○梶谷美智子委員 これまで教職員が1人で行ってきた業務を補助するというので、負担が軽減され本来の業務に集中できるということで、スクールサポートスタッフ配置支援事業とい

うことでよろしいと思いますが、以前名称は定かではありませんが、スクールサポーターや学習支援員というものの募集に対する応募というか、人数がなかなか確保できないということ、ここで聞いたように思いますけど、42校もの学校が配置を希望しているということからも、教員の多忙化解消に少しでもこの事業が役立てばと思いますが、今後の募集の仕方と見通しというものについて、現時点でわかる範囲で教えていただけたらと思います。

○**福田光一学校教育課長** はい。

○**宍戸健悦教育長** はい。学校教育課長。

○**福田光一学校教育課長** 募集の仕方についてはハローワーク、或いは市報と、広く市民に周知できるように募集をかけていきたいと思っております。

スクールサポートスタッフの今回の内容が、いわゆる事務の支援ですので、生徒に直接関わる仕事ではないところで、今、特別支援教育の支援員さんの募集については、割と多くの方が応募してくれていますので、生徒にかかわらない、その部分であれば、時間も短いですし、何とか確保できるのではないかなというふうには思っておりますが、募集をかけてみないと実態は何とも言えないところでございます。

○**宍戸健悦教育長** はい。よろしいでしょうか。

教員免許を要しないというようなことなので、一般に広くハローワーク等で呼びかけられればということで今考えているところです。

その他ございませんか。

(「なし」との声あり。)

石巻市博物館を核とした文化芸術振興に関する連携協力協定の締結について

○**宍戸健悦教育長** それでは、次に、「石巻市博物館を核とした文化芸術振興に関する連携協力協定の締結について」の報告を博物館長からお願いいたします。

○**高橋秀和生涯学習課長兼博物館長** はい。教育長。

○**宍戸健悦教育長** はい。博物館長。

○**高橋秀和生涯学習課長兼博物館長** それでは御説明させていただきます。

資料の方は表紙番号2の4ページから5ページをお開きいただきたいと存じます。

まず、「施策等を必要とする背景と目的」でございます。武蔵野美術大学とは、企画展、それから学芸員実習の受け入れ等につきまして、相互に協力して取り組んできたところでございますが、先般、同大学よりさらなる連携、協力を推進したいとの申し出を受けまして、連携事項、それから具体的な取り組みにつきまして協議を行って参りました。その協議が整いましたことから、連携協力協定を締結して、それぞれが有します資源、それから研究成果等を活用して、相互に連携、協力することで、博物館を核とした文化芸術振興を推進するということと、人材育成、それから相互の発展に資するというものでございます。

「根拠法令と総合計画、個別計画との整合性」につきましては特にございません。

④の「提案に至るまでの経過」でございます。まず令和4年の5月から、博物館の第2回企画展の方に、武蔵野美術大学さんの協力をいただいております。また、この企画展を活用しまして、同大学の学芸員実習の受け入れをさせていただいております。また、昨年度につきましては5月から8月に開催しました、博物館の第5回企画展の方に、同じく同大学の協力をい

ただいております、この企画展等を活用しまして、学芸員実習の受け入れをさせていただいております。また、それぞれの企画展の際に、講演会等をしておりますけれども、こういったイベントにつきましても、同大学からの全面協力をいただきまして、開催をしてきたところでございます。

⑤の「主な内容」です。まず、連携協力事項でございますが、博物館展示運営に係る知識習得と実践に関することから、6番のその他、相互に必要と認める事項に関することまでの6つの連携協力事項としてございます。協定の締結期間につきましては、締結の日から1年間として、毎年自動更新ということで考えてございます。

「実施した場合の影響・効果」でございます。協定の締結によりまして、博物館事業に対しまして、これまでも、武蔵野美術大学さんの方の経費負担によりまして、協力をいただきましてきたところでございますけれども、この締結によりまして、より、この経費の充当がされやすくなるということで、これまで以上の事業の充実が見込まれますほか、博物館を核とした文化芸術振興を推進するとともに、人材育成、相互の発展が図られるものと考えてございます。市の財政負担ですが、企画展等をやる場合には、予算はかかりますけれども、この締結によって、新たな財政負担が生じるというものではございません。

続きまして5ページになります。「今後の予定」でございます。5月18日に協定の締結式を行いまして、その翌日の19日から、森と海の美術展と題しまして、近隣の中高生を含みます事業の開始を行う予定としてございます。こちらにつきましては牡鹿半島をいろいろ見ていただいて、デッサンをいただき、最終的には11月にその中高生が描いた絵を、実際に展示してみようという企画を考えてございます。

それから「その他」でございますけれども、同大学との県内自治体との協定の締結状況でございますが、県内では本市が初めてとなります。同大学の地元でございます東京の小平市とは、協定を結んでございますが県内では本市が初めてということになります。

説明につきましては以上でございます。

○宍戸健悦教育長 それでは、ただいまの説明に対して御質問等ございませんか。

○阿部邦英委員 はい。

○宍戸健悦教育長 はい。阿部委員さん。

○阿部邦英委員 質問ではないのですが、こういう連携して博物館事業を充実させるというのは非常に大事な事かなというふうに思います。

これも石巻市博物館が、いろんな展示をやっておりますけれども、どこかの団体と連携をして、展示会を開催するということを行ってきたから、こういう連携がなされてきたのかなというふうに思います。

今後ともいろいろな団体や大学と連携をして、いろいろな展示をやりたいなというふうに思っております。今後ますますの、こういう企画を期待したいなというふうに思っております。

大変いいことだと思いますので、進めていただければというふうに思います。

以上です。

○宍戸健悦教育長 先ほどの話の中にもありましたが、昨年度までの間に、平山郁夫展である

とか、民具展であるとか、様々な形で御支援をいただきながらここまで来たところで今回の話がありました。今のお話のように、これからも連携を密にしながら、さらによりよい展示を目指していくというふうにしていければと思います。

他に御質問等ございませんか。

○**梶谷美智子委員** はい。

○**宍戸健悦教育長** はい。梶谷委員さん。

○**梶谷美智子委員** 先日、石巻日日新聞でしたか、博物館のページがありまして、職員の皆さんの写真と、博物館の紹介の記事が大きく出ておりました。とてもいいことだなあと、これからもいくつかのこと、いっぱい宣伝していただいて、より多くの方に足を運んでいただけるようになったらいいなというふうに思います。

先ほどの連携協力協定の締結ということで、これについて本当に喜ばしいことだなというふうに思います。

以前にも、この場でお話ししましたが、すばらしい博物館なので、やはり児童生徒に、博物館の利用という学習を通して共通体験をさせたいなと私は思います。例えば、博物館の職員と担任が連携して授業できるような取り組みであるとか、例えば、博物館で地域人材を活用してこんな体験学習ができますよとか、そういったプログラムというか、メニューを、もう作っていらっしゃるかもしれませんが、メニューを作って、積極的に学校の方に提案していただければ、もっと授業等で活用が図られるのかなと思います。

博物館での学習を通して、子どもたちがやはり石巻市の歴史であるとか文化芸術にさらに興味を持ってくれたらなと望んでいます。

ただ、この話をしたときにも話題になったと思いますが、やはり子どもたちの移動手段というのが大きな課題になってきます。そこを何とか学年や学級単位で博物館の利用ができるようなバス等を利用できるよう予算措置ができたらいいなというふうに思うところです。

○**宍戸健悦教育長** ありがとうございます。

ではただいまの件について、博物館長。

○**高橋秀和生涯学習課長兼博物館長** 石巻日日新聞の件ですけども、これにつきまして今年度から、毎月1回、3月まで12回のコーナーを設けていただきまして、博物館のPRを今まで以上にしていこうということで取り組みを始めさせていただいたところでございます。

また、学校の授業の活用という部分ですが、こちらにつきましてやはり子どもたちがこの石巻に愛着を持ったり、そういった意味で、歴史を学んでいただくという部分は本当に大切なことだと思っております。この辺につきまして学校側と、いろいろ協議等させていただきながら、前向きに検討を進めて参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○**福田光一学校教育課長** はい。教育長。

○**宍戸健悦教育長** はい。学校教育課長。

○**福田光一学校教育課長** 今年度、石巻市内の博物館も含めて震災の伝承施設とか、そういう施設を各学校で回れるような、今年度はモデル事業的に展開して、例えば石巻の小学生が3年生になれば、市内のそういう施設を回る機会を設けたいなというふうに思っています。

今年度は、モデル的に行って、来年どれくらいのお金がかかるかを計算して、来年度そのバ

ス代の予算を確保しようかなというふうに思っています。

学校のそれぞれのいろいろな目的があるので、博物館ピンポイントでというわけにはいきませんが、いろいろな教育に関わるような施設を、石巻の子どもたちが1回は回れるような機会を作っていきたいなというふうに思っています。博物館や震災の伝承施設とか、それぞれのプログラムも並行して作っていただいて学校にそれを提案できればいいかなというふうにも考えております。

○宍戸健悦教育長 ますますそういう体験活動もそうですし、石巻を知ってもらうということは非常に意義のあることだと思います。これは予算が伴うものですから、少しずつ進めていければというふうに思います。

では、その他、委員の皆さん、ございませんか。

(「なし」との声あり。)

その他

○宍戸健悦教育長 それでは、なければ一般事務報告を終了し、その他に入ります。

初めに委員の皆さんからございませんでしょうか。

○梶谷美智子委員 はい。

○宍戸健悦教育長 はい。梶谷委員さん。

○梶谷美智子委員 先日、石巻専修大学がソフトバンクと産学連携プロジェクトというふうなことで、教育分野で、ICTを活用した実証実験に取り組むというようなことが報道されておりましたけれども、宮城県では石巻専修大学と仙台大学が連携ということで、石巻専修大学では、この記事によりますとマット運動などの動作を撮影して、AIの解析で骨格の動きがわかるようなアプリを活用して、学校の体育の授業で使っています。

小学校ではもう4月から使ってもらおう予定だというようなことが、新聞には書かれていましたが、以前、学校教育課長さんの方から、体力向上プログラムの中で石巻専修大学と連携して取り組みを進めるというお話がありましたけれども、その中の1つが、新聞に書かれていたようなものなのでしょうか。教えていただきたいと思います。具体的にこんなふうに連携して作っていくというのがわかれば教えていただきたいと思います。

○福田光一学校教育課長 はい。教育長。

○宍戸健悦教育長 はい。学校教育課長。

○福田光一学校教育課長 体力向上プランの中で石巻専修大学との連携で、昨年度は、子どもたちの筋肉量を測る体操測定というのを、10校を選んで行いました。今年も去年やってなかったところを対象に体操測定を行って、今お話にあった、AIを使ったスマートコーチという、自分の動きを動画で撮影して、それを正しい動きとどれくらい一致しているか、どれくらいずれているのかというのを見ながら、動きを改善していくというような、アプリを導入しようと思っています。ただ、問題がありまして、今使っているタブレットにAIが入って動くかどうかという、少し容量が大きいので、その辺の課題を今後考えなければいけないなというふうに思っています。もし、そのアプリで動かない場合は、CDに焼いて、動画で各学校に配るとか、その辺の検討も必要かなというところです。

新しいタブレットになるのが来年なので、今の容量でそのアプリが動くかどうかというところ

るも含めて、子どもたちに進んで運動ができるような、その取り組みを石巻専修大学と連携して行っております。AIが入っているスマートコーチというのを、入れる予定であります。

○**中央戸健悦教育長** よろしいですか。

○**梶谷美智子委員** 子どもたちがお互いにタブレットを使って、マット運動であるとか、そういったもの撮影して、こうだったああだったというふうにしなながら、マット運動だと、器械運動なので、出来る出来ないがはっきりしていますが、お互いにアドバイスしながら出来るようになっていきたいと思いますというふうな、そのような授業のイメージでよろしいでしょうか。

○**福田光一学校教育課長** はい。

○**中央戸健悦教育長** はい。学校教育課長。

○**福田光一学校教育課長** イメージ的にはそのようなイメージですけども、例えばオリンピック選手の動きが上に流れて、下に自分の動きが流れて、どこがどういうふうに違うのかというのを、人の線を表すようなので、肩の動きがちょっと足りないねとか、腕の振りが足りないねというのを正しい動きと自分の動きを比較するようなこともできるようです。

それから、ダンスの動画が入っていて、それに合わせて画面の前で動く、自分がどれくらいずれているのかというのわかるようなアプリで、1人でもその画面を見ながら運動できるという機能があります。それをアプリと友達と、うまく活用してお互いに向上させるような、そういう取り組みがしたいなと思います。

○**梶谷美智子委員** はい。わかりました。

これは新聞に書かれているように、市内小学校全部に取り入れるということでもよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

○**中央戸健悦教育長** 肥満の率が高いということと、運動能力という部分と両方をこの石巻専修大学との連携の中で果たしていくところで押さえているので、これからさらに進めていくところで、大変私も期待していきたいなと思っております。

他に委員さん、皆さんから何かございませんか。

○**大和千恵委員** はい。

○**中央戸健悦教育長** はい。大和委員さん。

○**大和千恵委員** 今、部活動の地域移行の問題があると思いますが、他県で教員をしている知り合いに、教員が集まってクラブチームを作って、地域の子どもたちを集めて指導をしているという例も何件かあるというお話を聞きまして、市内でそういう動きがあるのかというのと、教員と兼業というか、そういったクラブチームで例えば月謝をもらってというのが、教員として市では認められているのかどうかというのを聞いたかったので教えてください。

○**福田光一学校教育課長** はい。

○**中央戸健悦教育長** はい。学校教育課長。

○**福田光一学校教育課長** 最初に兼職兼業については教員の方はまだ全然進んでいません。

昨年度から、部活動指導員とあって、一般の方を学校の指導員に招いて、雇用していますけれども、そこでもやはり仕事を持っている方は、超過勤務に当たるので、採用できなかったりと、なかなか難しい問題になったなというふうに思っています。

おっしゃる通り、他県では教員がボランティア的にそういうクラブチームを作ってやっているとありますが、おそらく報酬が出るとすれば、いわゆる人材バンクみたいなところに登録して、そこから派遣されているのかなというふうに思います。報酬というよりも、保険料だったり、そういう程度なのかなというふうに思っています。

今のところ、教員が部活動で兼職兼業というのは、正式に認められているとはちょっと聞いていないです。

今後の見通しは、宮城県は受益者負担で行うという方針を打ち出しているだけで、そこから先が何も見えないような状況です。昨年度、クラブチームで、柔道の団体が、中総体に出ましたが、そこが勝ち上がって東北大会・全国大会に行くと、全部自己負担で行かなければいけないので、今年度は参加しません、というような問題も起きていて、なかなか出口というか、その中総体の大会にどうやって、誰が出るんだというところがはっきりしないので、この部活動の地域移行をどのように進めようかというふうな大きな悩みがあります。

石巻市としては、今年度は今の部活動を中心に、各顧問が土曜日にやる練習会、いろいろな学校を集めて行う練習会に、それぞれの競技の協会の方を呼んで一緒に練習をしてもらい、来年度は徐々にそこから教員が手を引いて、その協会の方が中心で練習をしてもらい、令和8年度までには土日は完全に教員は練習にかかわらないというような、1つの目標で今取り組んでいるところです。一番は、子どもたちがやりたいことができないというふうなことになるように、今の形を少しずつ変えていきたいなというふうには思っています。

○宍戸健悦教育長 よろしいでしょうか。

部活動の地域移行について、今地域移行という言い方よりも、地域クラブ活動にどう移行していくかというふうな議論になっていて、進んでいる市町村は、かなり一生懸命試行的にいろいろなことをしている部分があります。

ただ、今話あったように財政面であるとか、体制の整備であるとか、その辺はまだまだ種目ごとにいろいろな障害があったり、違っていたり、いろいろな課題があります。

財政面もそうですし、指導者の問題、或いは市の活動する場所の問題、子どもたちの移動する手段という、まだまだ進んでいない部分があります。

石巻としては、子どもたちはもう日々中総体に向けて、今まで通り一生懸命やっていますので、できるだけ子どもたちを中心にした目線で、やれるところから少しずつやっていくというような形で考えています。

できるところからやっていくという方向で今いるところであります。

では、他にございませんか。

○依田晴美委員 はい。

○宍戸健悦教育長 はい。依田委員さん。

○依田晴美委員 子どもたちの登下校に関することですが、最近、駅がみんな無人駅になっています。そこで、やはり私なんかでも、暗くなってから、最近は明るくなってきたからいいですけど、暗い時間帯に1人で待っているというのはすごく怖いと感じます。ニュースで、郵便局と駅が協力して、駅に郵便局を作って、無人化を防ぐみたいな取り組みをしているというような話を聞きましたが、石巻にもそのような、取り組みがあればいいなと思います。

例えば、交番を近くに持ってくるとか、何かそういう工夫ができるように働きかけていっていただければ嬉しいなと思います。

要望です。

○佐々木伸学校安全推進課長 はい。

○宍戸健悦教育長 はい。学校安全推進課長。

○佐々木伸学校安全推進課長 今の話ですけど防犯上ということだと思いますが、110番の家というのがあって、子どもたちが何かあったときに逃げ込めるとか、いろいろ助けてもらうという施設で、各学校でお願いしているケースがあります。110番の家ですが、よくよく調べてみると、誰かがいる施設がいいので、店舗とか、要するにコンビニとか、そういったところをお願いをしているというケースは、最近増えているようです。

結構学区内には、そういった110番の家というのが、まだ調べてない状況ですけどもそういった対応をしているという学校も増えてきております。

○宍戸健悦教育長 今の話で無人駅という話が1つありましたが、現実問題、登下校で駅を使うという状況は、高校生が主ですね。そういう意味では、今の話のように駆け込めるような場所が、地域の中にあるということが1つは、今の段階の対応策だと思うのですが、依田委員さん、もう少し他にございますか。

○依田晴美委員 どうしても、無人駅になった場所ってというのは、過疎が進んで、お店もないような場所です。

例えば私のいる稲井駅の前に、昔はお店がありましたが、今はなくなっています。駅に人もいないし、周りにも本当に人がいません。一時、クマが出たという騒動があったときは、駅で1人で待っているのがすごく怖かったです。

そういうことも考え合わせながら、対策していただけたらと思います。

○宍戸健悦教育長 なかなか難しい課題ではあるなというふうには思います。

先ほどの学校安全推進課長のお話のように、店とかそういうのがどんどんなくなれば、やはり民家に駆け込むとか、そういうふうなシステムを、地域とともに作っていくというのがまず今の段階でできることかなというふうには思いますけれども、それぞれの地域の安全上の課題については、学校安全推進課でも、各学校、或いは地域と連携しながら、危険箇所等は確認しているところがございますので、そういう意味では、危ないところということで、皆さんに周知をして、気をつけてもらうというふうなところは、情報として流していかなければならないかなと思います。

今できることというのはそういう範囲かなというふうには思います。なお子どもたちの登下校については特に防犯上の問題もありますので、その辺は情報共有していきたいなと思います。

よろしいでしょうか。

その他ございませんか。

(「なし」との声あり。)

○宍戸健悦教育長 ないようでしたら、各課長さんから何かありませんか。

○赤坂将人教育総務課長 はい。教育長。

○宍戸健悦教育長 はい。教育総務課長。

○赤坂将人教育総務課長 はい。それでは、配布資料でA4で1枚お配りしましたが、教育委員会関連主な情報一覧というのを御覧いただければと思います。

稲井幼稚園の閉園式と、宮城県建設業協会石巻支部青年会クリアファイルの贈呈式というのを記載したものになります。

それでは、1番の稲井幼稚園の閉園式につきまして教育総務課から御報告いたします。

先月3月22日に稲井幼稚園で閉園式を執り行いました。教育委員会からは教育長、依田委員が出席しております。閉園式は卒園児6名、在園児1名を含む関係者約30名出席しております。園児によるお別れの言葉の披露や、園旗の返還を行い、43年の歴史に幕を閉じたところです。

以上で報告を終わります。

○宍戸健悦教育長 はい。その他。

○佐々木伸学校安全推進課長 はい。

○宍戸健悦教育長 はい。学校安全推進課長。

○佐々木伸学校安全推進課長 同じ資料の2番目になります。

建設業協会石巻支部青年会クリアファイルの贈呈式ということですが、3月27日に贈呈式が行われました。これは平成25年度から継続して贈呈していただいております。

各市内の小学校の新入学児童へ、防犯意識の高揚を目的としたクリアファイルの贈呈式が行われております。各学校には、すでに配布となっております。

以上です。

○宍戸健悦教育長 では、その他ございますか。

(「なし」との声あり。)

○宍戸健悦教育長 はい。では、ないようでしたら、次回の定例会の日程についてお願いします。

○成澤和彦教育総務課長補佐 はい。次回5月の定例会につきましては、5月22日水曜日午後3時30分から開催する予定です。場所につきましては、市役所4階庁議室で開催いたします。どうぞよろしく願いいたします。

○宍戸健悦教育長 それでは、22日、よろしく願いいたします。

では、以上をもちまして本日の定例会を終了いたします。

ありがとうございました。

午後3時17分 閉会

教育長 宍戸健悦
署名委員 依田晴美